
遊戯王GX-お気楽小僧の決闘者生活-

血糖小僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX―お気楽小僧の決闘者生活―

【Nコード】

N2048Y

【作者名】

血糖小僧

【あらすじ】

友人宅に泊まり込みで遊んだ翌日、友人宅の居間で起きた俺……高峰 勝利は遊戯王の世界にやってきていた。友達もかと思ったら、まさかの俺だけっ!?

持ってこれたのは圏外の携帯に遊戯王のデッキが9つとPSPと財布……あ、家はちゃんとあって良かった。と思ったら、亡くなったはずの両親が生きていた!?

と、よくよく体を確認すればなんか縮んでるし！？ え、高校受験？
遊戯王の世界に來たんならやっぱあそこっしょ！

これは決闘者として有名になり親孝行を目指すぽっちゃりとした少年の話。

第零話【目覚めたら異世界に】

クリスマスイヴ……俺、高峰 勝利は友人の家に泊まり掛けで遊びに来ている。互いに彼女なんてものはおらず、男二人だけの寂しいイヴだ。何をしているかと言うと。

「速攻魔法サイクロンを発動。俺から見ても一番右のカードを破壊」

「チェーンして呼び声を発動。クリッターを持ってきて呼び声破壊。クリッターの効果で顔を持ってきて、ほれ」

「くわあ、また負けた」

遊戯王カードをやっている。友人は最近新たに組み立てたエグゾデシアデッキを使っていて、俺は連敗している。守りのカードが充実していて攻めきれないでいた。もう、やっぱりあのデッキじゃないと駄目か。

「もう一回！ 今度はこれ使うから」

「ふあ、いや、それ何回目だよ。いい加減こっちは眠くなってきたからもう明日にしろよ」

「くっ、勝ち逃げは許さんからね」

もう午前二時過ぎ。俺もやや眠くなってるから大人しく引き下がる。

「あ、金ちゃん。俺のラビエルと金ちゃんのワイゼル交換してくんない？」

「ラビエルだけじゃなあ……幻銃士付きならいいぞ」

「よし、取引成立！」

こうしてカードを交換するのも金ちゃんだけになった。他の友人達はどうやめてしまっ……というよりも疎遠になって久しい。

「そういえば高峰。仕事は見つかったのか？」

「うっ……まだ」

「おいおい、大丈夫か？」

はあ、嫌なこと思い出させないで欲しい。俺は先週仕事をクビになった……今、再就職をしようと面接を受けてはいるが不採用ばかり。

くう、三十路でクビとか……この不景気な世の中じゃかなり痛い。しかも、よりにもよって30才になる誕生日にか。

「さて、寝るか。愚痴くらい聞いてやつから元気だせ」

「おう、恩に着る。あー、でも遊戯王みたいにカードゲームが仕事にあつたらいいのに」

「確かにいいよな。だが、所詮二次元だ。地道に探すしかないさ。じゃ、電気消すぞ」

友達の金ちゃんが電気を消して、この日は眠りについた。ここでもし、あんなことを言わなかったら……あんなことにならなかったのかもしれない。

☆↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓★

チュンチュンと小鳥がさえずる音で目を覚ました俺はむくりと布団から起き上がる。今何時だろ、と携帯を見れば。

「6時か……あれ、圏外？　なんで？」

携帯が何故か圏外になっていて首を捻っていると、ガチャリと部屋にある扉が開いて、そこから金ちゃんが入ってきた。

「あ、おはよ。金ちゃん」

「はよ、高峰。飯は昨日の残りでいいか？」

「うん、もちろん」

携帯の方は後でいいや。今は朝飯を食べることにしよう。冷えてい
るけど、それでも美味しいご飯を食べながらテレビをぼうつと見
ていると危うく嘔き出しかけるところだった。

「では、次に海馬コーポレーションが主催するイベント情報です」

「は？」

「お、待ってました」

俺はポカンと呆けるが金ちゃんは待ちかねたと目を楽しげに細めな
がらテレビから流れる音を聞き逃さないようにしている。え、ちょ
い待ち。海馬コーポレーションって遊戯王に出てきた会社だろ？

なんでそれが目覚ましテレビで流れてるんだよ。そして、金ちゃん
は不思議に思おうね。というか変なのは俺なのか？ ニュースでは
海馬コーポレーションが主催するイベントについて映像を使いなが
ら紹介しているが、俺は混乱してまともに聞いていない。と、ニュ
ースは次に移った……次はデュエリスト育成学校の受験申し込み期
日が終わるというものだった。

「あゝ、行きたいんだけど受かる自信ないんだよな。高峰は受けるのか？」

「……どうだろうね。就職とか考えたら受けた方が良さげだよね、うん」

「お前のデュエルの成績じゃ、無理だろ。俺と同じくらいだからな」
適当に無難な答えを返していると、金ちゃんの言葉に戸惑った。デュエルの成績って、授業に盛り込まれてるの？ ナチュラルに対応してるけど、マジで遊戯王カードで遊ぶ仕事があるの？ どうしてこうなった？ というか待て。今ニュースでやってたのは高校だぞ。それに成績って……そんなことを考えながらカレンダーに視線を向けると、そこには15年前の西暦が書かれていた。

これだと俺、中学3年生？　そういえば金ちゃんをよく観察すれば若干低い？　もしかしなくても若返ったのか？　いや、金ちゃんはそのまんまなんだろうけど。金ちゃんが違和感を感じてないってことは俺は15才の時の姿に戻ったと考えるのが妥当か。

あゝ、もう訳分からん。それから俺は逃避をするように遊んだ。15年前だったのにWiiでスマブラをやってと。そして、軽くデュエルをした。鞆には30才の俺が使っていたデッキが入っていたが、机には15年前に使っていたデッキが置かれていたのでそっちを使った。

夢の中の金ちゃんのデッキは俺の知っているデッキとは程遠い構成だった。俺の方も似たり寄ったりだったけど、無駄と思うカードを

抜いたらよく回るようになって24戦19勝と勝ち越した。うん、最近負け続けだったからなんか嬉しい。

大いに遊んで夕方になったので家に帰宅しようと金ちゃん家の玄関に今はいる。

「まさか高峰に大勝されるとはな。昨日、お前手加減してたのか？」

「うんにゃ、夢見がよかったからその通りにしただけ」

「夢でもデュエルって、お前そこまでがり勉強だったっけ？」

カードゲームでがり勉強して……。俺は苦笑いしてこの日は誤魔化して帰った。そして、家に帰ると……。

「あ、お帰り馬鹿兄。もうすぐご飯だから」

「ああ、麻弥。できたら呼んで」

「へいへい」

小生意気な妹に出迎えられて、俺はそそくさと勝利の部屋とプレイトがある部屋に入った。そこで俺は鞆を開ける。中からは向こうで確認した通り30才の時に使っていた複数のデッキと微調整用のカード数枚……交換したばかりのワイゼルが入っていた。

シンクロもエクシーズもある。いい加減、目を覚ましてもおかしくはないし、帰り道の時に頬を抓ってみたら痛みがあったので現実だろう。というかそう想定して行動しないと社長とかペガサスとかに目を付けられる可能性があるし。

絶対にシンクロとエクシーズは使えない。というか、そもそもソリッドビジョンが反応しないだろうし。それにチューナーだったモンスターテキストからチューナーという文字が消えてるから出せないだけだね。まあ、星を揃えて出すエクシーズモンスターは召喚できるだろうけど出せた試しがないからな。

それに目を付けられるのは嫌だし、安全に暮らすなら使わない方が吉。俺としては夢落ちを期待したいが、痛みがある時点で無理だろう。どうしてこうなったんだか知らんけど、人生をやり直す有り得ない機会が得られたんだし、今度は仕事をクビにならないように頑張らないと。

出来たら彼女も作りたいな。昔はゲームに睡眠、食欲にかまけてそういったことに興味無かったから。ああ、でも太ってたら無理だよなあ。いや、高校で一気に2倍に膨れ上がったから、今から努力すれば高3の頃にはきつと痩せてるはず。

よし、目指せスリム勝利……なんか売れない芸人みたいな名前になったな。さて、危なそうなカードを抜いていくつか組み直さんと。ここが遊戯王の世界ならアカデミア行った方が将来役立つだろうし、ドローパンを食べてみたいし。

主人公が居たとしても、どうせ俺はモブなんだから危険はないっしょ。あ、でも俺一期しか見てないんだよな。見た一期すら昔過ぎてろくに覚えてないし……確かE-HERO使いでガッチャって口癖

の奴が主人公だったな。

うし、成績のために徹底研究してあっさり負けないようにしよう。
ただでさえE－HEROデッキは苦手なんだしな。要注意は属性ヒーローだ。他はどうとでもなるし。

色々考えている内にとある問題のデッキに手を伸ばす。確認せずに
なんで問題と分かるかは簡単だ。俺のメインその2で、通称邪神デッキ。
その名の通り三邪神が入っているデッキだ。

邪神を出すことに俺なりに特化させたこのデッキは、まさしく邪神
がエースでありフィニッシャー。邪神が除外されるか墓地に送られ
れば負け確定のギャンブルデッキ。だけど、勝率がまずまずと当初
はネタで作ってすぐバラす予定だったのにいつのまにかメインの一
つになっていた。

金ちゃんから邪神が憑いてるんじゃないかと冗談で言われたことがある。
なんせ、絶対に一度は出るんだもんな。たった一度だけ三邪
神がフィールドに出揃ったことすらあるし……ただ、その時はイレ
イザーを狙われて負けちゃったけど。

俺としてはまだまだ使いたいのだが、この世界で三邪神を使うのは
危なすぎる。絶対にペガサスに目を付けられるのは分かり切ってい
るから。うー、でもバラしたくはないし……うん、これは手付かず
にして保存しておこう。

デッキケースに丁寧に納めて作業を再開。12個あったデッキは9

つまで減った。だって、しょうがない。減った3つはシンクロ主軸だったからシンクロが使えなかったらパワー不足と硬さ不足で負けるのは目に見えてるし。それにその内の一つは切り札が結束……絵柄的に絶対に使えない。そういえば今更だけど、このデッキにあるカードってソリッドビジョンに映るんだろうか？

そんな最初に気付いて当然の疑問にぶち当たった時、階下から俺を呼ぶ声がした。ご飯が出来上がったのだろう。ひとまず浮かんだ疑問は置いて夕飯食べよう。この問題を解決できるのではないかとで調べないといけないけど。

居間に着いた時に叫ばなかった自分を褒めたい。そこには4年前に亡くなったはずの両親が座って待っていたからだ……いや、15年前だし生きてて当たり前のはず。なんかもう、どうでもいいや。夢だろうとあの時悔いたことをやれるようになったんだ。なら、夢から覚めるのもやることやってからだ。

「……母さん、父さん。俺、デュエル・アカデミアに行きたい」

そして、プロになって温泉旅行を家族で行くんだ。俺はそう心に誓った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2048y/>

遊戯王GX-お気楽小僧の決闘者生活-

2011年11月4日03時05分発行